

20年後、30年後の 下野市について一緒に考えてみませんか？



えびさわ はるな

Profile

1996(平成8年)1月12日生まれ
石橋幼稚園→古山小学校→石橋中学校
→宇都宮女子高校→日本大学法学部
株式会社リクルートで法人営業を担当

高校時代に英語ディベート部で議論の楽しさを知る。

石橋商工会青年部所属、地元で地域活動を行う

家族構成:父、母、妹、祖母
好きな食べ物:うなぎ、梅干し、かんぴょうのたまごじ
趣味:ハロー！プロジェクト、セルフネイル、ディベート

下野市を、日本一「自慢したくなる地元」へ。

はじめまして。えびさわ はるなと申します。
私は石橋の飲食店の長女として生まれ地域の皆さまに支えられながら育ちました。
その後、都内の大学へ進学し就職しましたが、30歳という人生の節目に、
これまで育てていただいた地元へ恩返しをしたい——その一心で下野市に戻る決断をいたしました。

私は地元に戻るたび、ひとつだけ胸が痛むことがあります。それは「ここは田舎だから……」という、
どこかあきらめにも似た言葉を多く耳にすることです。私は、その言葉がとても悲しいのです。

下野市には、誇れる魅力がたくさんあります。だからこそ私は、「みんなが自慢できる下野市」を目標に掲げ
前向きな空気を広げていきたいと本気で思っています。

下野市を離れ、栃木県外で暮らし働いた経験があるからこそ分かる、この下野市の素晴らしさ。
それと同時に、外から見えた課題もあります。30歳という現役世代だからこそ感じとれる視点があります。

後援会 会長/患者団体 代表 **津田 魁**

「全ての人の不安と悩みに寄り添いたい。」

彼女が下野市で活動するこの理由は、綺麗事に聞こえるかもしれませんが。
しかし、その想いは、本物です。難病を抱え、毎日戦いの中で生きる私に対して特別視することなく
常にフラットに接してくれました。
そして「地域医療・介護をより良くするために何ができるか」を
自分事として一緒に泥臭く考えてくれる人間です。
県内最難関の高校を卒業した知性と、超体育会系の営業現場で鍛え抜かれた根性。
彼女には、たった一人になっても、誤解されても、困っている人のために立ち上がる強さがあります。
どうか皆さんの心の奥にある「困り事」を、彼女にぶつけてみてください。
えびさわはるなは、絶対にあなたを一人にしません。
一緒にえびさわはるなを応援できる人が増えると嬉しいです。



市民の皆さまへお願い

あなたが「楽しい」と思うこと。
あなたが「つらい」と感じていること。

どうか、すべて聞かせてください。

えびさわはるな後援会

栃木県下野市文教1-14-17



わたしが取り組みたい3つのこと

① 若者が働きやすいまちへ

- ✓ 市独自奨学金制度のさらなる充実
- ✓ 市内・近隣企業との連携強化で就職支援
(企業説明会・マッチング機会の拡充)
- ✓ テレワーク支援の強化で若者の地元定着を後押し
- ✓ 中小企業の経営の見える化や
地域の経済動向調査、創業支援を推進

☞ 「地元で働ける」選択肢を増やします。



② 子育て世代を全力応援

- ✓ 所得に制限されない手当を目指す
0~2歳の保育料補助など
- ✓ 地域で子どもを育てる交流の場を拡充
- ✓ 子ども食堂・自治体などの支援制度の見直し
- ✓ 子どもも大人も生活しやすいようインフラ整備の推進

仕事も子育ても諦めない

☞ 地域全体で子育てしやすい下野市へ。

③ 家族の、自分の、最期を「選択できる」仕組みづくり

人生の最期を本人が望む形で過ごせるよう様々なサービスを拡充していく

- ✓ 自宅での看取りを支える医療・行政・地域連携の強化
- ✓ 認知症の方やその家族を地域と行政・関係機関が協働して
支えるしくみの構築

☞ 最期まで「自分らしく」生きられる環境を。



みんなに寄り添う下野市

若者も、子育て世代も、高齢者も。
それぞれの人生に寄り添う市政を目指します。